

おれんじ鉄道さらに減便

運転士不足 来月から県内で計8本

肥薩おれんじ鉄道（八代市）は30日、8月1日から

当面の間、現行ダイヤから一部を減便すると発表した。2月に開業以来初めて減便しており、平日ダイヤでは、八代―川内（鹿児島県薩摩川内市）の全線で2月分を合わせて上下計51本中18本を減らす。運転士不足が原因。

熊本県内の区間では、2月に減便した上下1本ずつに加え、新たに上下計8本を減らす。同社は「学生の通学時間帯を避けるなど、乗客への影響を可能な限り抑えた」としている。しかし、沿線の高校や高専などに減便を報告した際、「部活動生の帰宅の時間に当たる。考え直してほしい」との声が上がったとい

う。代行バスは運行しない。

同社によると、現行ダイヤの維持に必要な運転士は37人だが、3月末で27人に減少。今後退職者が見込まれることから減便を決めた。採用を強化しているが、運転士の育成には1年以上

かかるため、ダイヤの回復時期は不明という。

運休が続く「おれんじ食堂」についても、運行再開の見通しは立っていない。同社経営戦略室は「できるだけ早く元のダイヤに戻せるよう努力する」としている。（水田智）